

下校時刻になりました
運動部はグラウンドの
整備をお願いします

校内に残っている生徒は
速やかに下校してください

あの…綴部さん
いますか…？

んが…っ

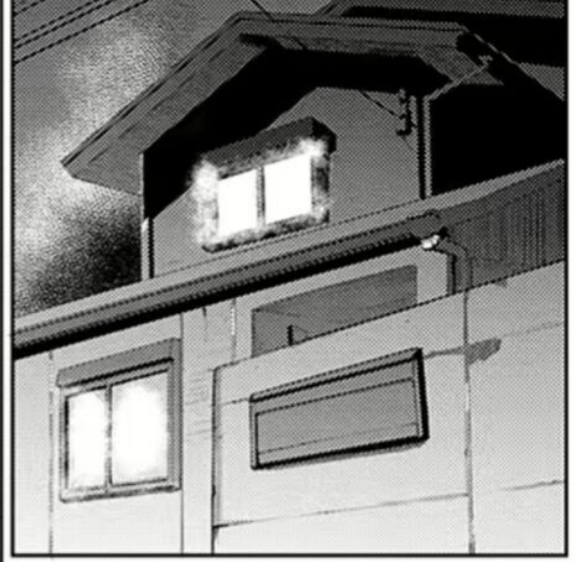
今日もう閉店なんで
明日にして
いただけると…

ありがたいんです
けど…

本の虫は
濡れる









明日…

どうやって
顔合わせれば…



あつ…早見くん
遅いよお!!

ずっと待ってたんだから



これから
埋め合わせてよね!

なんすか…

そのキャラ…



大丈夫？
なんか元気ないけど

ズン



あの本のせいか
変に意識して
喋りにくい...

なにが話題...



べ...別に...

急に呼んでごめんね
でもゆっくり
話したかったから



ほんとに!
ほんとになんでもなくて!!



あ...いや...
そんな事...

ほんとに?
汗すごいよ?



あ...その
今日はちみじくも...



ちょっとボロだけど
上がってよ



あっ着いたよ
この2階なんだ

その...





ええ——ッ



ひびッ



よいしょ



本読んだ？
貸してあげたやつ

へーやっぱ速いね
どうだった？

あっ…
はい

えっと…
あの…その…



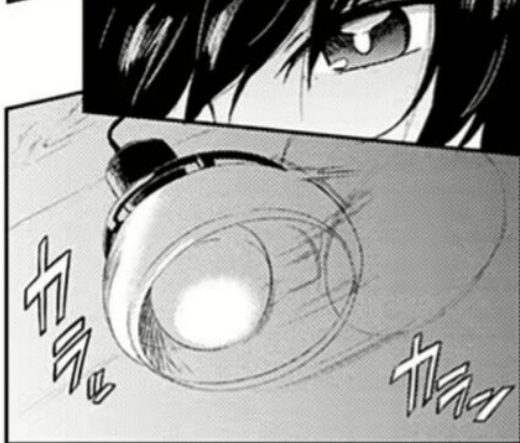
もっと
ボキヤブラを…

頭真っ白で
言葉がっ



あの著者の本は
そこそこのタイトル
知ってましたけど

なんていうか



カラン

カラン



なんていうか…
こう扇情的な



いつもより
内面の描写が粘着的で



ちがうなあ
なーんかいつもほど
熱意が伝わって
こないね

言葉が足らなくても
キミのあの楽しいレヴューを
待ってたんだけど？



そんな
意味わからな…っ



えっ!?
ちよっ…

今キミの熱は違う
ベクトルにあるみたい





まあ…キミが
イヤなはずないよね

ほとんど毎日
会いに来て



そんな…っ
いきなりいッ

おっ
おっ
おっ

意味なんか考えてないよ
やりたいように
してるだけ

嫌ならやめるけど



わあああ

顔を真っ赤にして
熱の入った口調で
寄ってきたなら

殆ど口説きに
来てるような
ものじゃない



できるでしょ
一応オトコノコ
なんだから



な…っ
ボクそんな

その気がないなら
拒んでみたら？



状況と熱気で
混乱した頭を一度…

くーるだ…

すーる

なあッ

やりたいようにって
言ったでしょ？

だからって…
流石にそれは…

ズ
ズ
ズ

ふーん
でもコッチはやる気
十分じゃない

わ
あ

オナノコが
腹くくってるんだ
覚悟決めなよ

あ
あ
あ
あ
あ



これえっ
すげーっ

あーっ
あーっ
あーっ

ぱち

あーっ

あーっ

あーっ

んんんんんん

あーっ

っはあ♥大丈夫…?
重くない?

セックスしてるって
事実だけで頭がどうにか
なりそうなのに…

部屋の気温と乾きで
頭も体も湧けて…

平気っ
です…あっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ

グチャグチャに
なる…ッ

ふふ…私ずうっと
気になってたんだ

作品の中でも
特に沢山の言葉を
使う行為が…

物語を綴れる
とっても頭の
いい人達が

とっちん…
とっちん…
とっちん…

一体
どんなものなのか
…ってね





この瞬間
気持ちいいなり

んっ♡



もっと早く
君のキモチに
応えればよかった♡





こせぬ...♡
かっくさ
勢さ...

お腰の風で
びじかっく...♡

ハッ
ハッ



勢い全然
収まんないね♡



二回目なのに
ガツチガチで...

これなら
まだまだ
デキそうだね♡

流れる汗は
お互いの肉体が
溶け合うようで

部屋の暑さで
火照った体が
絡み合って

思考と肉体が
融解していくような
麻薬的な快樂は



理性を欠くには
十分な量だった



あ...はあ
すごい熱い...

お腹...
ぽかぽか...♥

アッ





でもシヨックだあ
優等生の
綴部ちゃんが…

こんなおイタ
してたなんて

これ…先生や
保護者サマが
観たら…



俗世の女どもと
違う図書室で凜と
佇むキミの事

おじさん大好き
だったのになあ

それが…

カメラを仕掛けて
レンズ越しにずっと
みてたんだあ♡

あんな
ガキに!



ほ…本当に大丈夫なんですか…

ああ…今日はそういう事だから

用務員の方と点検作業があるほら体操着だろ

で…でも

僕も何か手つだ…

いや…いい君は委員じゃない「部外者」だ

帰っていいよ

ヒヤハハ…ツひでえなアオイカワイソーじゃないか!

どうせ…ツ彼が居てもするんだろツ♡

図書室は…彼との大事なツ♡

なのに…ツ♡

うるせえよチンポしてえだけだろ♡

こんな姿ツ彼には…♡

私は何をしてるんだ…♡



お掃除も大分
うまくなったなあ♡

ハッ...♡
ん...♡



唇やわらけえ♡
優しく吸い出せよ

ちゃ♡

ん...♡
ん...♡



ん...♡
ん...♡



へへ...普段のキレイな
顔が...汚物まみれだ...♡



あく射精たわ...
飲めなかった分は
顔面に塗り込んで...

俺専用の証
マーキングに
してやる...♡

クソ色ポケ脳に
しっかり自分の主人の
臭いを覚えさせろよ

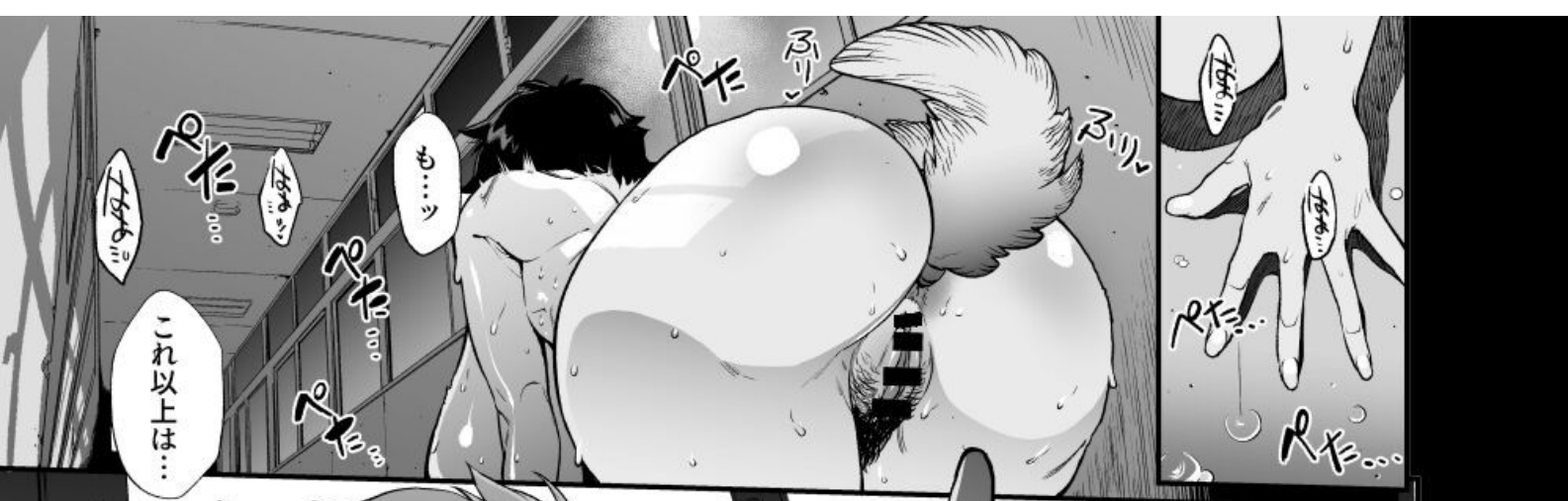
アレを握ってる限り
一生俺の支配下から
逃がさないからね♡

ん...♡
ん...♡
ん...♡

ん...♡
ん...♡

ん...♡
ん...♡

ん...♡
ん...♡
ん...♡





綴部さんは賢いからわかるよね…♡

何度も言わせないでくれよ♡



ホホ… たまらんなあ♡



君はもう…

何かを選べる立場じゃないんだ♡



まさかこんな最高級エロ●Kが手に入るなんて…♡

クソガキどもの世話をしてきた甲斐があったわ♡



君の彼氏の教室は
この階だよ♥



オオ、おしっこ
しながらまんこ
ヒクついてエロい♥

もういやだ…
恥ずかしい…

死にたい

なんでこんな…



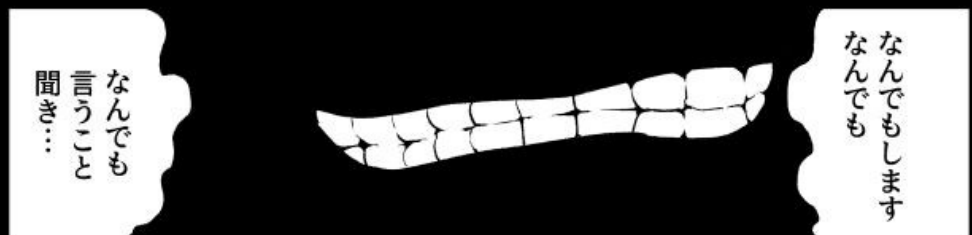
もう嫌です…
許して…ッ

お願いします
本当にもう無理
なんです…



お願いします…

もう許して
下さい…



なんでもします
なんでも

なんでも
言うこと
聞き…



じゃあ…
条件を付けよう

それをこなせたら
綴部さんは
解放してあげよう♥

あ…

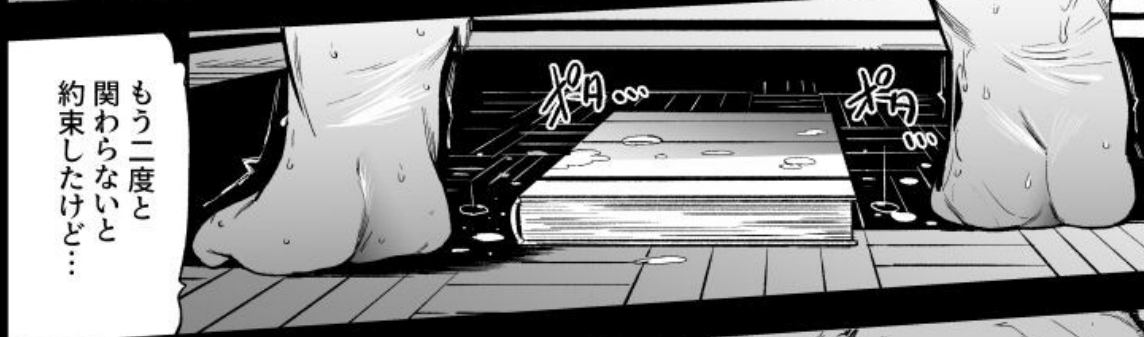


ヒッヒヒ♡
やっぱり綴部さん
身体の相性
いいね…僕と♡

チンポで小突く
だけでイキ潮
漏れてるよ♡



彼氏の机の
君の本…
濡らさなければ
君の勝ち…



もう二度と
関わらないと
約束したけど…



やっぱり恋人の
僕と離れたく
ないんだね♡

だれが…♡

子宮で亀頭フェラ
しながら言ってるじゃ
ねえよ♡



この調子じゃ
足元の名作
文学書が

河原の濡れた
エロ本みたいに
なってしまうよ♥



本当にカレの
事スキなのかい
綴部さん

とっ…
とうじえ…ッ

この体たらくで
かい？



抜こ♥



フウツ♥
そろそろ
イキそうだ…

尻尾もう邪魔
だな…ッ♥



な…やめ…ッ
触るなあッ

チンポ押し付けて
種付けするから…

早見くん…

もうすぐ…

終わるから…

図書室の
いつもの場所で

オオッ♡今日一ッ
精液出るぞッ♡

孕めッ♡
オナホ決定ッ
子種ッ♡♡

待ってて…

お見
お見
お見

